

FRIENDS OF GREEN

No.79 1992年9月発行



第35回全国印刷緑友会広島総会

白井会長挨拶・広島総会実行委員長挨拶

第35回広島総会議事録・大阪青年印刷人クラブ30周年記念

岐阜セミナー報告

 全国印刷緑友会

第35回全国印刷緑友会広島総会

Hiroshima A GENERAL MEETING



全国印刷緑友会会長
白井 秀幸

オリンピック、高校野球が終るとともに真夏も通り過ぎ、さわやかな秋を迎えようとしております。会員の皆さまにはお元気で活躍のことと拝察申し上げます。

今回の不景気は、大企業の本社が集中する東京等の大都会から、地方へと半年程の遅れで移行、日本全域へと拡大しているようです。

印刷業界の不景気の底はまだ見えていないというのが現状で、特に商業印刷の需要は、消費動向が上向くまで回復は望めないという深刻な状況にあります。

消費の低迷に金融業界の問題もからみ、三極同時不況の様相が深まりつつあり、経済的低迷状況は当分継続すると考えた方がベターであります。

今こそ、市場の景気停滞状況に合わせた経営方針の革新が必要な時です。同業大手の不況に対する変革はさすがに俊敏であり、私たち中小企業も急ぎその対応をはからなければ、取り残されてしまうこ

とは明らかな状況にあります。思い切ったイノベーションをお願いするところです。

さて、9月26日(土)、27日(日)は、第35回の全国大会です。本年は、茨城印刷緑友会の主管で水戸市において開催致します。トレーナーに着替えて、リラックスして心ゆくまで語り合える……ほんとうに水戸に来て良かったと言っていただけ、そんな大会になるものと期待しております。

45分間の「語り合い in Me とi」及び2時間の「懇親会」において、より多くの全国の仲間と交流ができますよう、心ゆくまで語り合ってください。

いつも大会の楽しみである記念講演は、芸術文化都市水戸の生んだ作曲家、池辺晋一郎氏をお招きし、現代の音楽シーンを格調高く語っていただきます。

今大会の実行委員長、林明君が水戸室内管弦楽団のファーストバイオリンを担っていると聞き、一層

興味を持って講演を拝聴したいと思えます。

もう一つ、今大会までによりやく会員名簿が完成、皆様のお手元にお届けすることができます。

今回の名簿は情報量を増やし、ネットワークの一助にさせていただくことを目的に作成しました。

名簿作成にあたり、原稿を集めていただきましたグループ長様、名簿担当の西川常任幹事、岡田常任幹事に心から感謝申し上げます。経営環境が厳しい折ではございますが、多くの会員の方々と水戸でお会いできますよう心からお待ち申し上げます。

第35回全国印刷緑友会広島総会を終えて



あいさつする佐々木実行委員長

第35回全国印刷緑友会広島総会は、緑あふれる平和都市広島にて、全国33グループよりオブザーバー参加も含め183名の会員、5名の来賓を集め、広島駅にほど近い広島ターミナルホテルにて盛大に開催されました。

今回の総会は、白井会長が提案推進されている「ネットワーク作り」というテーマを、我々広島青年印刷研究会のメンバーも充分に理解するとともに、今回総会を運営する最大のテーマとして少しでもお手伝いができる様、準備を進めてまいりました。

当日は、総会前にグループ長会議を行い、一年に一度の総会に際し、各グループリーダー諸氏も白熱した意見で議論し、発展・拡大を続ける緑友会の大いなる期待と今後の方向性について、時計が進むことも忘れ、予定時間を超過するほど実りある会議となったように感じます。

総会も、引き続きしまった空気の中、決算報告、事業報告、予算案、事業計画案等、提案議案すべてが承認され、ネットワーク作りの第一歩とされる緑友会会員名簿作成状況も報告がなされ、進歩ある総会と感じられました。

次いで記念撮影終了後、別会場に移りトーキングタイムを開始。ここでも、各々のテーブルリーダーたちの進行により、業界を取りまく諸問題や現在我々の身近な問題を、参加者全員で積極的に情報・意見交換を行いました。特に、時短、雇用、賃金問題等には、切実かつ深刻な経営者の悩みが話題の中心となり、経済低迷の中、印刷業界にも様々な形で取りまく不安

材料があり、これらを打破しようとする懸命の努力と対策。参加者全員が真剣に、何かを吸収しようとする姿勢が感じられました。また、緑友会のイベントにも、恒例となっているトーキングタイムが「ネットワーク」に一つの大きな輪となりつつあることも見逃せない事だと感じられました。

今回、広島総会のもうひとつの見せ場は、懇親会のオープニングを飾る「ピースチャイルド講演」です。広島は、世界で初めて原爆という悲劇から立ち上った都市です。誰もが平和への願いを持ち続けています。そんな広島にびったりの若者のパワー。舞台を駆けめぐる少年・少女達が繰り抜ける平和への讃歌。大きな感動をお届けできた事と思います。

その後、次の大会開催地である茨城大会のPR。さらには、次年度総会開催の大分若梅会へ総会旗を伝達。懇親会もこのあたりまで来ると広島メンバーにも心なしかグラスを傾ける者も増えてきた様で、いよいよ「靴が鳴る」の合

唱にてクライマックスを迎えました。ここまで盛り上ったボルテージは下がることなく、緑友の輪は夜の「流川」へと流れていくこととなりました。トーキングタイム第2ラウンドの結果はいかがでしたか…？

私たちを取りまく日本経済の状況は、決して樂觀などできません。しかし、緑友が続く限り、総力を上げて全員一致で取り組み道は開けるはずでです。たった一日のこんなに緑友の熱い結びつきが、私たち一人一人をつつみ込んでくれたこと、すなわち、印刷文化発展には、我々緑友の活力が必要なのです。

私たち広島青年印刷研究会会員一同は、OB会員共々、総会を主管させていただくため、精一杯の準備をさせていただきました。しかし、力不足のために不手際もあつたかと存じます。常任幹事の皆さまはもちろんの事、ご参加いただいた同志の皆さまにも、大変ご迷惑をおかけ致しましたこと、お詫びいたします。と共に、緑友の

友情の厚さには心より感謝いたします。

お陰をもちまして、かねてより私たちの念願であつた緑友会総会の運営を、なんとか無事に終える事ができました。またいつの日か緑友会発展のため貢献できることを願いつつ、広島総会を終えてのお礼のごあいさつとさせていただきます。広島総会開催に際し、ご協力いただきましたすべての皆さまに、心より感謝いたしますと共に、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

全国印刷緑友会 広島総会
実行委員長 佐々木 孝朗





全国より200名の会員が参加

広島青年印刷研究会が主管した「第35回全国印刷緑友会広島総会」は、5月9日午後2時半から、広島市のターミナルホテルで開催された。全国から34グループ、約2百人の青年印刷人が参加。三年度の事業、決算報告や四年度予算案など6事項を審議し、いずれも原案どおり承認した。本年度事業としては第35回全国大会を9月に茨城印刷緑友会の主管により水戸市で行うほか、第26回セミナーの日程も決めた。来年度の総会は、大分

印刷若梅会の主管で実施される。

総会では国歌斉唱、綱領唱和につづき、実行委員長の佐々木孝朗氏による歓迎のことばで始まった。

白井秀幸全国印刷緑友会会長があいさつ「昨年の札幌総会で会長に就任して一年、会員の友情に支えられたおかげでがんばれた。もう一年、なんとか皆さんの期待に応えていきたい。現在には不透明な時代であり、ますます不安感が増しているが、こういう時こそ仲間が集い、同志的結合をはからねばならない。本年は会員名簿も完成し、より一層ネットワークが進むと思われる。本総会においてもトーキングタイムでネットワークについて取り上げている。これを機会に全国を網羅した仲間たちが、情報交換に努めることができれば幸いである」と述べた。

来賓を代表して松田栄治広島県印工組理事長が祝辞を述べ、祝電が披露された後、全国緑友会の前会長である城戸憲次氏が議長となり審議を開始。

上程議案は①平成三年度事業報



あいさつする
白井会長



平成4年度予算

(平成4年4月1日～平成5年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科目	金額	摘要
前期繰越金	770,131	
会費収入	3,463,200	43グループ 1,279名
合計	4,233,331	

支出の部

科目	金額	摘要
総会補助金	400,000	広島総会(4.5.9)
大会補助金	400,000	茨城大会(4.9.26)
セミナー補助金	300,000	東京セミナー(5.2.13)
機関紙「緑友」	927,000	「フレンドオブグリーン」(79号・80号・81号)
入会手引印刷及びインフォメーション増刷費	400,000	
ビデオ補助金	300,000	広島総会・東京セミナー(各150,000)
会議費補助金	300,000	
会計事務費	100,000	
総務事務費	100,000	
書記事務費	100,000	
印刷通信費	120,000	
会長活動費補助	200,000	
予備費及び繰越金	586,331	
合計	4,233,331	

4. 機関紙「FRIEND OF GREEN」発行

編集：千代田印刷人新世会
第79号：平成4年7月発行
第80号：平成4年11月発行
第81号：平成5年3月発行

5. 会員名簿発行

平成4年6月完成

6. 常任幹事会

第1回 平成4年7月11日(土)
仙台(予定)
第2回 平成4年11月14日(土)
東京(予定)
第3回 平成5年3月13日(土)
金沢(予定)

7. グループ長会議

第1回 平成4年5月9日(土)
広島ターミナルホテル
第2回 平成4年9月27日(日)
水戸京成ホテル

8. その他会の目的に必要な事項

平成4年度事業計画<基本方針>

社会変革が進むなか、不透明な景況をむかえ、印刷経営のカジ取りはきびしさを増しつつあります。

今こそ、緑友の仲間はその英知を集め、同志的結合をはかるときです。

緑友は語り合い、考え合う場——新しいスタイルの会員名簿からネットワークのめばえを期待します。

また、個人、企業、業界が抱える変革への道しるべも発見できるよう努力したいものです。

1. 第35回定期総会

主管：広島青年印刷研究会
日時：平成4年5月9日(土)
場所：広島ターミナルホテル

2. 第35回全国大会

主管：茨城印刷緑友会
日時：平成4年9月26日(土)・27日(日)
場所：水戸京成ホテル

3. 第26回セミナー

主管：常任幹事会・在京グループ
日時：平成5年2月13日(土)
場所：ホリデーイン横浜

平成3年度決算報告書

(平成3年4月1日～平成4年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科目	金額	摘要
前期繰越金	647,033	
会費収入	3,463,200	43グループ 1,279名
受取利息	18,878	
合計	4,129,111	

支出の部

科目	金額	予算額	摘要
総会補助金	400,000	400,000	札幌総会(3.5.25)
大会補助金	400,000	400,000	沖縄大会(3.10.18)
セミナー補助金	300,000	300,000	岐阜セミナー(4.2.8)
機関紙「緑友」	816,500	927,000	76号・77号・78号
入会手引印刷費	0	200,000	
ビデオ補助金	300,000	300,000	札幌総会・岐阜セミナー
会議費補助金	300,000	300,000	
会計事務費	100,000	100,000	
総務事務費	100,000	100,000	
書記事務費	100,000	100,000	
印刷通信費	120,000	120,000	
会長活動費補助	200,000	200,000	
予備費	222,480		常任幹事名刺作成
次期繰越金	770,131	665,033	
合計	4,129,111	4,112,033	

告②同決算報告、会計監査報告③
平成四年度事業計画④同予算案⑤
新規加入の件⑥次期総会開催地
の6項目。

四年度の主な事業は、9月26、
27日の両日に水戸京成ホテルで開
かれる全国大会のほか、常任理事
会・在京グループの主管で来年2
月13日にホリデーイン横浜で実施
されるセミナー。また、ことし六
月の完成を目指していた会員名簿
は9月に発刊できる予定である。

新規加入は東印工組の山之手支
部山青会で、会長代理の伊藤厚志
氏（脩正文堂）が紹介された。

議事終了後、午後4時半からト
ーキングタイム、6時半すぎから
懇親会が催された。



ネットワーク強化の
トーキングタイム

大阪青年印刷人クラブ 創立30周年記念式典盛大に開催される

◎日時：平成4年2月14日
◎場所：ホテル・ニューオータニ
◎：参加106名

本年四月で創立三十周年を迎える大阪青年印刷人クラブは2月14日、中央区のホテル・ニューオータニで創立30周年記念式典を開催。歴代会長やOBら新旧メンバーが一堂に顔をそろえ、大阪印刷業界の歴史とともに歩んできた「青印ク」の伝統を盛大に祝いました。当日は大阪府印刷工組・石川忠理事長、全国印刷緑友会・白井秀幸会長、大阪青年印刷人協議会・進藤研一議長、大阪青年会議所印刷部会・山川正博部会長ほか全国の緑友メンバーも出席し、井下精二副会長の開式宣言に続き、開式に際しあいさつに立った矢谷会長は、「多くの諸先輩が培ってきた伝統と繁栄を守りつつ、われわれ現役のメンバーが一致団結して、大きく発展していけるよう努力する」と決意を表明。

来賓あいさつの中で大阪府印刷

工組の石川忠理事長は、労働力確保、技術革新、時短など業界の課題を指摘する一方で、「最も大事なことは、21世紀の輝かしい印刷産業像の確立であり、すなわち将来構想とその対応への着手である」と述べ、「それを実行し、実現していくのは大阪青年印刷人クラブの皆さんをはじめ、次代を担う若き印刷人だ。青年印刷人こそ、印刷業発展の原動力であらねばならない」と大きな期待を寄せました。

一方、全国印刷緑友会の白井秀幸会長は、緑友会への同クラブの貢献を高く評価するとともに、「業界は今、いろいろな意味で新しい道

を模索している最中だが、大阪は商売の町と言われるだけに、大阪青年印刷人クラブの皆さんをはじめ、大阪印刷業界から良いアイデアを出してほしい」と述べました。

この後、20周年時以後の歴代会長に感謝状を贈呈。

OBを代表し、あいさつに立った2代会長の岩岡敏志氏は、「現代は情報過多のため、正常な判断で世の中を見極めるということが難しい時代と思う。時代の流れとともに『活字』を失いつつあるわれわれだが、情報と文化を担う立場の人間として、価値ある情報・文化を後世に伝えて行く責任がある」



開式に先立ち、あいさつする
矢谷会長

と述べ、将来に向けて「業界の推進力であってほしい」と、当クラブの役員、メンバーらを激励。これを受けて小橋実行委員長が、「三十年の歴史を糧とし、ますます発展していけるよう努力する。一層のご指導を」と述べた。式典終了後、元阪急ブレイブス（現オリックス）選手の福本豊氏を講師に「若手人材育成と四方山話」と題して記念講演会を催したほか、懇親パーティーを開き、互いの友情を深めました。



20周年～30周年の歴代の会長

岐阜セミナーグループディスプレイ カッションの報告

日時：平成4年2月8日(土)
場所：岐阜グランドホテル
主管：ぎふ印刷翠陽クラブ

平成4年2月8日(土)、岐阜グランドホテルにおける岐阜セミナーグループディスプレイカッションの内容を、大変遅れましたが、報告させて頂きま
す。尚、お骨折りました、ぎふ印刷翠陽クラブの委員会の皆様方
本当にありがとうございます。

- ① テーマ
- ② 出席者
- ③ グループの中でネットワークを組んだとしたら、何ができるか。
- ④ 「自社にとって、現実に経営に役立つネットワークを提案できるか。」
- ⑤ その他

テーブルNo.2

① 求人支援プロジェクト

② テーブルリーダー 千葉(仙台)

服部(神戸)

小出(名古屋)

高橋(茨城)

藤田(大分)

薬師寺(広島)

角田(東京写真)

河合(岐阜)

野々田(岐阜)

③ 信頼関係、仲間意識で互いに情報交換

人材不足の為の交流

地方から都市への集中

修業契約 3～5年間同業者での雇用

仕事の下請等の方法

④ 社員教育の情報交換

外国人労働者の雇用

女性労働者の雇用

印刷業界のイメージアップの方法・改善策

環境整備・快適な雰囲気作り

就職・賃金・定着の方法

⑤ 緑友会の全国の賃金体系を明確に調査する。

印刷の適正価格の勉強・見積合戦で効果

無料サービスの廃、排除 デザイン等

テーブルNo.4

① 社員教育ネットワーク

② テーブルリーダー 喜久里(沖縄)

森川(名古屋)

佐々木(広島)

左味(能登)

大内(東京プロセス)

安藤(名古屋)

米沢(岐阜)

浅野(岐阜)

③ グループの中でネットワークを組んだ

としたら何ができるか。

各社、何らかの方法で社員教育を行っ

ているので、それに使用している資料

を貸し借りする。

例えば、印刷技術か営業技術の教育ビ

デオ、また、同種の本等の教材、とい

った社員教育用の資料を回すことは可

能です。

④ 自社にとって現実に経営に役立つネッ

トワークを提案できるか。

社員教育という長期的な計画が必要な

テーマなので、今回のディスプレイショ

ンで出された意見が現実に役立てられ

るかはわからない。この方法でうまく

いったという情報提供者はおらず、い

ろいろやったがうまく行かない、どう

すれば良いのだろうかという情報をほし

がっている人ばかりだったので、ディスプレイカッションの時点では役立ちかどうかは判断できない。

⑤ 社員教育には、オペレーターの技術面の教育、営業マンのサービス面の教育等があるが、それらを教育するには、まず、社員1人1人に対し、会社の風土や理念、コンセプトを教えこまなければいけない。
要するに、個々の意識を変える教育が必要である。

社員教育というと、外部から講師をまねき、印刷技術を学んだり、管理職に経営学を学ばせたりすることが多いが、それらを行っても本人に意欲がなければ効果はない。
まずは、意識の教育が必要になる。

社員に対し、会社での必要性を感じさせ、もつと良い物を作りたい、良い仕事をしたいという気持ちにさせることが必要である。

それには、経営者や管理職が、しっかりとした考えを持ち、社員に接しなければ、社員にその気持ちはめげえない。個々が意識さえしっかり持っていれば、様々な教育も身につくだろう。

このように、社員教育の手順を話し合

った感じだったが、社員教育の成功、情報ネットワークのきっかけにはなっていないと思います。

テーブルNo.5

①社員教育ネットワーク

②テーブルリーダー 逸見（青山会）

書記 野村（岐阜）

山内（名古屋）

牛田（名古屋）

杉谷（名古屋）

大園（神戸）

佐野（山梨）

小森（同友会）

小橋（大阪）

③ネットワーク作りの基本にあるものは人と人とのつき合い（ヒューマンネットワーク）以外にない。そして緑友会においてのネットワーク作りの中では、世代を越えて離れた地域の中で大小（会社）に関係なく、知らない人（世界）と話し合う事ができる利点を、いかにして良い人につき合う、良い話を聞く、良い仲間を作る、うまく親密さをはかる、などなど、緑友会にまじめに真剣に取り組むことにより、自然にネットワークが作れるのではないか。先に利

益をもとめた形のネットワークとか、形からはいったネットワークとか、表面上のネットワークとかは、決してネットワークとしての意味をもたない。以上が、ネットワーク作りの基本であり、すべてではないのでしょうか。

次にテーマの社員教育ネットワークの話では、社員教育をネットワークするという意味がわかりにくい為、あえて突っこんだ話し合いはなかったが、テーブルリーダーの逸見さんの会社の中で、社員教育をどのようにしているかという事について話を聞きました。

社員教育とは、押しつける教育ではなく、各人、自発的に責任感とかやる気がおきるような状態にさせる事が大事である。『残業はするな』という言葉に對して社員は、『残業をしないと仕事が消化できない』その答えを会社は、『効率よく仕事をしよう』と出した。たとえば会社の始業時刻が7:30としたり8時までに会社にはいり始業できる準備をして8時30分になったらすぐ仕事に取りかかることが大事である、8時30分ぎりぎりに会社にはいり、9時までお茶を飲んで9時30分まで営業準備をして9時45分にスタートしては、全く時間の無駄である。朝、30

分早くスタートを開始していれば、仕事の効率はかなり違ってくる。プロ野球の選手は、ナイターが6時30分開始ならば、6時30分に球場にはいるのではなく、3時間も4時間も早く球場にはいり準備をして、6時30分ピッチャーにスタート出来る体勢を作っている。それがプロである。と社員に答えた事があるそうです。

次に休みを多く作る、しかし全休体制ではなく、交替で休みを取る体制を取っているそうです。会社の中でグループを作り、グループの中で休みの人の仕事の穴をうめる為に他の人がいかにがんばるか、いかに効率よく仕事をこなすかという事は、すべての人が仕事の内容を深く良く理解していないと出来ない。責任を持って仕事をしないと、自分が休んだ時に誰も助けてくれない。そんな自発的な仕事者が巧をそうして、現在年間休日130日近い休みを取っているそうです。

以上、ほかに色々な社員教育のアイデアやシステムを、メンバー全員が大変興味深く聞きました。逸見さんの話が、社員教育のネットワーク、つまり、良い話を聞く機会を得ることができる。

そして、自分も良い話を出れるようになれば、又良い話を聞く事ができる。そんな関係がネットワークなのではないでしょうか。

テーブルNo.6

①販促支援プロジェクト

②山本（北九州）

葛城（能登）

米倉（千代田）

児玉（名古屋）

西原（愛媛）

伊藤（名古屋）

井奈波（岐阜）

糸州（沖縄）

南（金沢）

渡会（名古屋）

大洞（岐阜）

③販売促進のとらえ方

① 自社（印刷及関連）の販売

② 顧客の販売

が2通りあり、又、他のグループで、新需要開拓」というテーマがあった為当ティスカッションでは、② 顧客の販売一つまり、印刷会社の様々な得意先の営業政策、新規需要開拓にどうい

形で支援していくか、という観点から論議した。

(私個人としては、ネットワークという事で印刷会社及び関連の販促支援だと思っていた。)

顧客の販促をどう支援するか、例えば、顧客別の営業会議に印刷会社のデザイナー、プランナーを参加させたりして、ソフト面から販促にたずさわる。又、顧客側の体制に協力して、デザイナーetcを出向させたりする。そして多品種、小ロット、短納期に対応する。

①の販促支援は、情報ターミナル基地(緑友会事務局)等を通して、特殊な印刷、短納期でできる会社、低コストでできる会社を紹介する。といった方法をとるのがBETTER。

④広告代理店が、企画、デザインから印刷手配をしているのが現実

印刷会社もっとプランニング、プレゼンテーションetcをする。受注型でなく独自で、又広告代理店と共同で主導型な方向へ転換するべき。

*但し、印刷会社同志のネットワークとなると、やはり各地域毎、各クラブ毎でやった方がいいとの意見もあった。つまり、近隣の緑友会員とのネットワーク(情報交換、勉強会)が原点とな

る。

⑤各クラブから数名、緑友連絡員として選び、情報提供の中核機関をつくった。らしいのではないかといい意見もあった。

私個人としては、もつと他のテーマのグループディスカッションにも参加しなかった。でも大変勉強になりました。

テーブルNo.7

①販促支援プロジェクト

②テーブルリーダー 佐々木(下関)

坂本(能登)

武内(山梨)

谷添(神戸)

中村(名古屋)

水谷(名古屋)

書記 伊藤(岐阜)

③このテーブルには、印刷業5名 製版業者2名で、そして、東は山梨県西は山口県の地域でどのように行うべきかというディスカッションを行った。最初に品質、納期、受注金額の3つが完全にクリアされることももちろんであるが、緑友会らしく親睦を深め、自分の会社の長所、短所を示しつつ行うことが必要ではないだろうか。その為

にも緑友会の大会、セミナーなどに積極的に参加して、より多くの会員と親睦を行うことが必要だ。

④この件について、話し合いはほとんどされませんでした。が、会社の特色、特長を伸ばす会社づくりをしたい。

⑤③と④に関することになりましたが、今回セミナーに「ネットワークづくり」について、このまま終りにすることのないようにしたい。これは一つの提案ではあるが、全員全てが自由に参加できる伝言板的緑友会情報誌のようなものができないだろうか。全国の会員が

会う機会は年に数回ほどしかなく、日頃こうした情報交換によって、地域の離れた会員同志が結びつきを深め、より一層大会などの行事においても盛り上りを増すことになるのではないかと、多くの会員が積極的に参加することが条件ではあるが……。

最後に緑友会がより一層発展していくよう努力することを誓った。

テーブルNo.8

①企画情報交換ネットワーク

②会田(文京)

尾古(能登)

林(名古屋)

道上(神戸)

堀岡(金沢)

我孫子(大阪)

金谷(名古屋)

野原(岐阜)

春日井(岐阜)

③企画、情報、デザインを表現する方法として、パソコン、マンキントッシュ

を使う会社が増えてきたので、メーカーが教えてくれる操作ではなく、実際の使い方についてネット(勉強)を組むとよい。

④全国レベルのネットワークを組むには、パソコン通信を使う。(写植会社、製版会社、出版会社)

⑤全国レベルのネットワーク以前に、地方においてネットワーク(分業化)を進めるべきである。

東京は、かなり分業化が進んでいるし、地方は分業化は進んでいない。印刷という受注生産から、製品を作って売っていく事を考えたい。

パソコンの簡易言語を利用して、経営に役に立つ使い方を考えたい。デザイン、版下等の価格についての話。これからは、原稿はフロッピーで入稿されるケースが増えてくるし、機械同

士の互換性を考える必要がでてくる。

テーブルNo.10

①「新需要開拓（印刷）」

②松浦（佐賀）

伊藤（岐阜）

加藤（名古屋）

利根川（文京）

西川（名古屋）

岡田（愛媛）

政浦（能登）

吉川（青森）

③集まった各社の間でネットワークを組むことについての話し合いはなかったが、ネットワークについての一般論として、

まず、仲間仕事でのグループを形成する。その際に大事なのは、各社の得意な分野に仕事を回すこと、従って各社が、自社の強み、得意分野をはっきりと打ち出して「この仕事ならウチに任せて欲しい」ということを明確にアピールすることである。

④グループのテーマである（印刷）の新需要開拓については、受注活動にあたって、自社の設備・能力でこなせる仕事だけに限っていると、

どうしても守備範囲が狭くなってしまふ。そこで、他の分野の会社（例えばデザイン会社、企画会社など）とジョイントを組み、JBJOINT BUSI-NESSの形で仕事の幅を拡げて行くのも一つの方法である。また、そのときに自社の目指すポジション（印刷だけに限るか、製版からこなすのか、あるいはデザインから入るのか）を明確にし、その上での戦略を立てていくことが必要である。

⑤その他、印刷業、印刷業者の将来について、

印刷産業そのものの性質が、これまでの労働集約型の産業から、知識（情報）集約型の産業へと変化しつつあることを自覚しなければならぬ。各種様々な電子メディアが発達していく中で、取り扱われる情報の最終的な出力が、紙にインクをのせる「印刷」という形をとっているのである。従って、これからの印刷業はその周辺のメディア（ビデオ、CDその他）を取り込んでいかななくてはならない。そのために最も重要なことは多様化する職場に対応できる人材の形成（教育・育成）となるだろう。

テーブルNo.12

①ネットワーク作り

②矢谷（大阪）

城戸（茨城）

崎山（名古屋）

内野（名古屋）

岡崎（神戸）

依田（山梨）

白井（文京）

後藤（岐阜）

③グループの中でネットワークを組んだとしたら何ができるか

私の業種（シール印刷）は下請率の高い業種なので、営業面でのネットワークが組めればと思います。

④自社にとって現実に経営に役立つネットワークを提案できるか

下請け率の高い今の業種では、現在の営業域を越えた遠距離ネットワークは無理です。

⑤内容：ネットワークは、小は企業内あるいは地域内ものから全国的なもの又は同業種から異業種とさまざまなレベルで形成される。接続さえ可能であるならどこでも、又どこまでもつながって様々なネットワークが大小狭きまざまに構築されると、大量情報の蓄積と同時に「時間と距離と知識蓄積

をゼロ化」という効率のよい社会になるのだが、反面体質的には弱くならざるをえない。なぜなら、全体がネットワーク化されることによって相互のつながりを強め、有機的になり過ぎて一箇所の痛みが全体を走り抜けてしまふのである。そして私的なことも公共性を持つということの意味があるのである。言い換えれば、情報が死活問題になりうることになる。だから現在では「時間と距離のゼロ化」の最大問題でもある。

テーブルNo.13

①文字データベース

②新井（長野）

橋本（金沢）

石井（大阪）

武藤（大阪）

姫野（大分）

林（茨城）

鬼頭（名古屋）

渡辺（青森）

櫻田（岐阜）

③文字データベースのオンライン化。通信回線を使って、ワープロ入力などの人手不足の補助などの協力関係。

マッキントッシュに関して、各社より導入に関して将来的にネットワークの核になりうるものであり、そのシステムに関する質問が、大阪の石井さんへ殺到した。

④数社より文字データベースのオンライン化についてネットワークしようという提案があり、しかし具体的に現実経営に役立つかどうかの結論は出ませんでした。しかし、緑友会のネットワークを利用して自社のページものの印刷などの仕事にいかしたいとのこと。

テーブルNo.14

①オフ輪情報交換ネットワーク

②白井(名古屋)

玉川(福岡)

井上(同友会)

黒田(仙台)

竹内(長野)

根村(岐阜)

③オフ輪を持っていない会社は、単価、

時間の点では対抗出来ない為各社オフ輪業者へお願いしているのが現状。

・オフ輪価格は平台の業者には考えられないような安い値が出ているが、人件費、償却費が出るのだろうか？

・設備投資に莫大な資金がかかるので、設備が出来ない所の為にもネットワークは必要。

・全国的なネットワークより、まずその地域でのネットワークが必要。

・地域でのネットワークは、商売上での問題があり、その調整が困難。

・自社の設備・得意分野のリストを出し合って、グループを組んでいく。

・まず顔を合わせ、話し合い、お互いの信頼関係をつくりあげないとネットワークをつくることまでいかないのではないか。まず人的交流が大切。

テーブルNo.15

①印刷新技術研究会

②グループリーダー 藤岡(愛媛)

後藤(名古屋)

書記 村井(岐阜)

石川(岐阜)

斉田(千代田)

高木(名古屋)

③④⑤ まずグループリーダーの軽いあいさつの後、一人一人自己紹介をして

本題に入りました。開口一番リーダーからテーマが大きすぎて漠然としていたので、どんな事からでもいいので意

見を出して下さいとのことでしたが、話し始めると色々な意見が出て白熱したディスカッションをさせていたいただきました。個々の会社では色々な技術革新をやっているとは思いますが、新技術といっても現在業界ではメーカーサイドからノウハウを押し付けられているだけでネットワークを組むほどまでにはなっていないのが現状であるというのが一致した意見でした。

(出た意見)

・東京には情報ネットワーク委員会(テスト段階だそうです)を作りつつあり、これは設備、仕事内容、新技術及びアイデアetcをインプットして、パソコン通信上のやりとりで情報を得るというもので将来的には全国規模にして

いきたいとの事でした。

・熟練工ではなく印刷の性能を100%使いこなせるオペレーターを1、2年で教育している

・技術協会及び個々の組合等で新技術のノウハウを保護できないか

・業界できちっとした指導者(印刷及び、関連技術)を育てる義務

・技能士の資格があっても何にもならないので新システムを作り資格取得者を増やす

・印刷機の水、版、インキetcの研修会、各種勉強会の充実

・機械メーカー・製版メーカーに実際に印刷出来る社員、製版出来る社員がい

テーブルNo.17

①平台オフセット情報交換ネットワーク

②加藤(山梨)

藤井(広島)

増田(札幌)

墳本(茨城)

阿部(岐阜)

井上(岐阜)

③具体的な意見はでませんでした。

但し、緑友という組織をふまえて、人間関係が大切であるという意見では、皆さんがうなずかれていた様に思います。

④・⑤常につきまとうことですが、営業面では、繁簡差の問題でネットワーク化することにより、自社の設備を有効に運用する事が出来るのではないかと

技術面では、各社、得意・不得意があり各々の特色が分かれれば、それを有効に利用する事が出来るのではないかと

その為には緑友という全国組織がある

のだから、その中でタワー的存在となる一つの拠点が出来れば、今後のネットワークの基盤になるのではないかと、緑友の意見が出ました。緑友の益々の組織化に期待すると言ふ事の様です。

テーブルNo.19

①「ビジネス印刷物デザイン・ネットワーク」

②芝崎(千代田)

田中(文京)

川上(神奈川)

宇佐見(名古屋)

三木(神戸)

福田(広島)

三池(佐賀)

酒井(岐阜)

山北(岐阜)

③ネットワークとは、各社の「もつてない部分」を補い合うということが必要である。印刷事業のソフト面及びハード面に於いても、つながりができればいいと思う。例えば同地区内の同業社では、都合が悪い場合でも、緑友会の全国組織の拡がりを利用すれば直接の利害関係はなく、自社で印刷できない

ような物でも設備等を導入するよりネットワークの会員に依頼した方が便利である。

又、印刷業のみでなくメーカー等も加入して、新しい情報を入手できればより効果的と考える。

それに仕事関係以外でのネットワーク「人と人とのつながり」という意味で、信頼できる緑友の会員の相互の個人的なつながりができればベストではないか。

④ネットワークを組んで情報交換をする場合でも、情報を得たいということばかりで、自社の情報を提供・公開できるところは今のところほとんどない。

その意味で「緑友だより」を活用して会員の紹介をすべきではないか。

⑤テーマ別のテーブルグループのみでなく、全員のアンケート資料が手に入る、いいと思う。

今後ネットワークを組んで運営していく場合、できるだけ具体的な情報が必要とされるのではないか。

「緑友だより」を通じて、会員相互の情報交換をもっとすべきだと思う。

テーブルNo.20

①「ネットワークとは？」

②テーブルリーダー 中村(金沢)

池田(名古屋)

島陰(名古屋)

浜野(千代田)

難波(山梨)

鈴木(東京プロセス)

柴田(神戸)

深尾(岐阜) 書記

③緑友に入っている事で、一応ネットワークに入っているが、その内何人がほんとうに利用できているか？

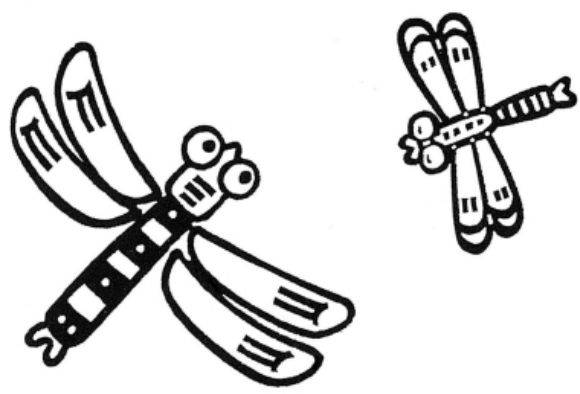
今度の名簿に得意分野等が入るので大いに利用したい。

近くの人に聞けない事でも、遠いと利害関係がないので教えてもらえる場合もある。

ネットワークを造るのは一朝一夕ではできない。毎回の積み重ねが大事であり、それには緑友会に参加して、いっしょに酒を飲むくらい親しくなる必要がある。

本当の情報はネットワークの奥に有る。Na.20グループは「印刷周辺情報ネットワーク」の人の集まりで直接印刷に携わっている人は少なかったため、なかなか話がまとまらなかったが、各人の

本音が聞けたし、このグループフェイスカッションから何でもいいから得ようとする意見が感じられた。



INFORMATION

コンベンション施設を備えた地方で初の
全天候型けいりん場「グリーンドーム前橋」
(写真提供：群馬県青年印刷研究会)



前橋市より赤城山を臨む
(写真提供：群馬県青年印刷研究会)

あなたも
FRIENDS OF
GREEN に
寄稿しませんか！

お蔭様で皆様方より徐々に原稿
が届くようになりました。

現状の緑友会だよりはセミナー・
大会・総会の報告などがメインと
なっておりますが、今後の方向性
としては左記の記を入れて、ニ
リユアルなものにしたいと考え
ています。是非、皆様方の寄稿を
お願い致します。

一、現状のものはすべて入れる
二、参加グループ関連記事

・グループ紹介↓働く人々紹介
・近況報告

・最新ニュース
・活性化のための具体例

・情報交換
三、参加グループ内の企業記事

・企業紹介
・革新的、拡印刷を実行してい
る企業の情報

・情報交換
四、紙上勉強会記事

・税務、労務問題
・人材確保、あの手この手
・印刷業の問題と解決事例
・最新印刷機械ニュース

五、常任幹事会レポート
(資料送付先)

〒100東京都千代田区神田佐久間町
四一六

株式会社 昇文堂 斉田精一
(千代田印刷人新世会)



全国印刷緑友会

FRIENDS OF GREEN

FRIENDS OF GREEN **No.79**

〒920-03 金沢市打木町東365

TEL.0762(40)3700

発行人 白井秀幸(金沢青年印刷人クラブ)

編集人 千代田印刷人新世会
